

# 「学ぶ」ではなく「感じる」ための場所

新規性・独創性

意匠性・造形性

普及・啓発性

社会提案性

展開性

社会課題解決

森は体験と学びのためのプラットフォームではなく、「森を」ではなく、「森で」

「morinosひろば」では、建物の屋根に降った雨を使った雨水のポンプ、泥遊び、穴掘り、木工体験ができる。数十種類のレンタルキットで、火おこしや薪割り、虫とりや丸太切り、ハンモックなどを楽しむこ

とができる。森は体験と学びのためのプラットフォーム。「森を」知ってもらいたいのではなく、「森で」何かを感じてほしい。



まずは森を楽しみ感じること  
「ふしぎ」「たのしい」「きもちいい」  
すべての人と森をつなぐ

国内初  
すべての人を  
森に誘う施設

morinosは、岐阜県立森林文化アカデミー内にあり、子どもから大人まで森林に親しみ、森とのつながりを体験できる「すべての人と森をつなぐ」ための森林教育の総合拠点である。国土の2/3を占め、岐阜県では8割以上を占める森林は、木材供給のための森だけでなく、感性を育む空間利用や、豊かな生態系の維持、防災機能などを備える貴重な資源。その豊かな森を身近に感じるように、子どもから大人、個人から企業・団体まで、森林体験プログラムや森のようちえんなど、多面的活用を幅広くサポートする開かれた施設となっている。

これまで、知識を伝える「学ぶ」活動が多かったが、森や木について深い理解を得るためには、体験から「感じる」ことが重要であり、「不思議」「楽しい」「気持ちいい」などの感情を大切にして



名称：morinos（森林総合教育センター）  
施主兼運営者：岐阜県立森林文化アカデミー  
設計者：岐阜県立森林文化アカデミー木造建築教員（辻充孝、松井匠、小原勝彦）、第17期学生（坂田真、大上優里恵）  
施工者：澤崎建設株式会社  
主要構造：木造 階数：地上1階 延べ面積：129.04m<sup>2</sup>  
主な使用樹種：ヒノキ、スギ、ウダイカンパ等



普及・啓発性

社会提案性

展開性

地域貢献性

社会課題解決

人材発掘育成



小学校の授業の一環（小学2年生生活「秋みつけ」）での体験



小学4年生 森林体験での一場面

## 【morinos利用者数（令和2年度）】

令和2年度利用者数合計 11,038人  
プログラム体験者数 3,351人

来訪者の居住地属性  
近隣市町村（美濃市、関市、岐阜地区）68.3%  
その他県内（西濃、東濃、中濃、飛騨地区）22.6%  
岐阜県以外 9.1%



## 森の楽しみ方、学び方を知れば 誰でもいつでも体験できる 広がる身近な森での体験



様々な個性を持った子どもの森林体験



保育園に隣接する森林での  
リスキーマネジメント研修



森林での教員研修（県教育委員会）

学校等と連携した  
体験により  
森とつながる

県内の保育園・幼稚園、小中学校、特別支援学校などの教育機関等と連携し、森の中の保育や授業、森林体験などを実施している。morinosに於ける森林体験の他、保育園や学校などに出前授業として出向き、園児・児童に身近な環境での森や自然の楽しみ方や、屋外での授業の体験を進めている。

令和2年度は、12園・校に対し、延べ26日実施し、保育園・幼稚園では森での遊び、小学校では、森林体験や生活科、社会などのほか、算数や英語の授業も実施した。

身近な森と日常的につながる方法の広がりについて、

体験から学ぶ  
楽しく学ぶ  
指導者の育成

森林教育を推進するために必要な指導者の育成を年間5回、延べ12日実施している。保育園への指導者研修活動における森林でのリスクマネジメント研修や、森の中で、子どもが全力で遊ぶこと、刃物や火を安全に扱うための方法を学ぶ研修などを実施しているほか、実際に保育園で園児と遊ぶ場を設けて、保育士に対するOJT研修、保育士になる前の学生に対する研修も実施している。

また、市や県の教育委員会と連携した森林体験の方法や自然を生かした教育に関する教員研修を実施し、森林での研修の評価は高く、研修依頼は増加している。

特別な支援学校の他に、様々な個性を持った子どもを支援する団体と連携した活動を実施している。

「こんな笑顔見たことない」プログラム中にお母さんが発した言葉。morinosでは、様々な個性を持った子どもたちが森での体験を通して、自由に、自然に輝いていく応援を続けている。森の中では、子どもも大人も、それぞれの思いをすつと受け止めて、自然体になれる。



**morinos**

# 「トンガリわくわく実験場」前例をつくるフロンティア

新規性・独創性

普及・啓発性

社会提案性

地域貢献性

幅広い層への普及啓発



森×家畜のいる暮らし「こけこっ子キャンプ」ニワトリの命をいただく (R01)

「いいね!」「面白そう!」  
まずは挑戦してみる



森×音楽×星空「星空ピアノ」星空の下き火を囲みながら作曲家の即興演奏を楽しむ (R01)



プログラムを実施した際は、その内容や反応を可能な限り公開し、ファンを増やすとともに、他の団体などの参考となることを心掛けている。ブログでの報告の他、オープン前から継続して実施している動画制

## HPやYouTube、SNSと 情報をオープンに



森×スポーツ「リラックスラン」 (R02)



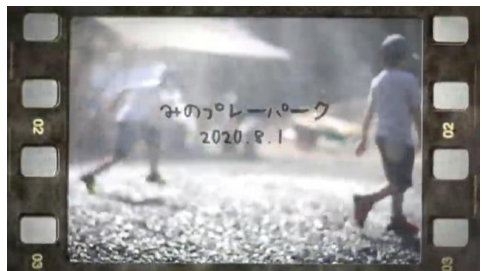
森×木曽馬「動く馬を体感する」 (R01)



森×裸足「裸足で森歩き」 (R03)



森×スポーツ「サイクリングinみち」 (R02)



作、YouTube「morinosチャンネル」では、開館1年間で37本の投稿、視聴回数は年間合計で三万六千回を超える。さらにSNSは、Facebookで活動を発信。ゲストを呼ぶライブ配信も人気で、フォロー数は千四百人を超えた。

森に何かを掛け合わせる体験に挑戦している。大人から子どもまで体験の幅は広い。  
・森×音楽×星空「星空ピアノ」  
・森×スポーツ「ロゲイニング」  
「リラックスラン」  
・森×家畜のいる暮らし「こけこっ子キャンプ」  
・森×木曽馬「働く馬を体感する」  
・森×裸足「裸足で森歩き」  
など、多くのプログラムが生まれている。これまで、森とのかかわりがなかった人が訪れたくなる森での体験を生み出し続ける。

## 森×大人にも子どもにも

令和2年7月のオープンより1年前から40以上の実験的な試行プログラムを実施した。普通のプログラムではない。どこか尖ったプログラムをどんどん生み出してどんどんやってみる。県が運営する施設だからこそ、「前例になるプログラム」をつくり続けていく。

## オープン前から始まっている 1年間の試行



斧を使った伝統技法「三ツ紐伐り」で伐採した106年生ヒノキ 保存会からの指導の下学生が伐採 (R01)

## 日本・世界の仲間と作り上げた 100%県産材の施設

ドイツBW州（バーデンビュルテンベルク州）のロッテンブルク林業大学（UR）との教育連携・交流から市民の身近なところで森林教育施設「森の家」（HAUS DES WALDES）を目的とした。morinosの構想が持ち上がった。

学生による1週間の短期設計ワークショップにより基本案を作成し、最終日に特別招へい教授で建築家の隈研吾氏をはじめ、涌井学長、岐阜県林政部の職員等が入り、学生と基本構想を取りまとめた。

ヒノキ丸太のV字柱は森林文化アカデミーに隣接する演習林から伐採。そのうち1本は伊勢神宮式年遷宮の御用材伐採などで披露される斧を使った伝統技法「三ツ紐伐り」を採用した。また、十二単（じゅうにひとえ）の左官壁は客員教授で左官技能士の挾土秀平氏指導のもと学生もワークショップで参画した。

100%県産材で、かつ多様な樹種を使っている施設は木材輸送距離を表すウッドマイルズ評価と合わせて木材の多様な活用モデルが見られるシヨールムとなっている。

自分たちで作れるものは  
みんなで作る  
それも、みんなを巻き込んで



パン窯づくり



スツールづくり

## セルフビルドで 地域づくりモデル

morinosでは、プログラムの一環として、利用者にも人気のパン焼き窯などを「セルフビルド」で参加者と一緒につけている。

自分たちで作ること、使いやすい、修理しやすいものができる。さらに多くの人を巻き込むことによつて、つながりが深くなり、使いやすいものが自分で作れるようになる。ついでに予算が少なくて済む。

参加者は、主催者側が提供するサービスの「購入者」ではなく、この場所を作り上げていく「仲間」。この手法は地域やコミュニティづくりのモデルともなる。

## まずは 大人が楽しむコト

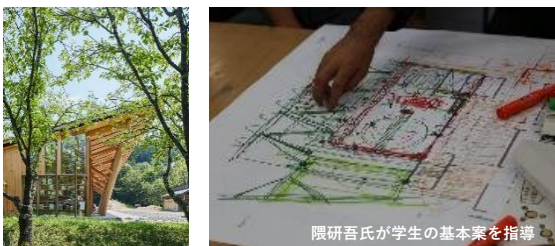
これまでもセルフビルドで施設を整備してきた。「パーマカルチャー」を学びながら作るパン焼き窯、「森のオブジェ」、「グリーンウッドワークでつくるスツール」など。

大人が真剣に学びながら楽しく作る横で、子どもたちが真似をしたり、手伝いを始める光景が自然に展開していく。

自分で作るからこそ楽しくなる。本気で遊ぶから、本気で笑える。大人が本気で楽しいと子どもも楽しい。そんな場所をつくっていく。



森林文化アカデミー演習林で伐採したコナラを活用し、教員・学生、利用者がスツールを制作



隈研吾氏が学生の基本案を指導

【地域の林業・木材産業への貢献】	
★★★★★ ウッドマイルズ	123 km
★★★★★ 流通把握度	77.5 %
★★★★★ CO2削減率	80.3 %



挾土秀平氏による左官壁

社会提案性

時間的価値性

社会課題解決

人材発掘育成

幅広い層への普及啓発



経年美化による風合傷が価値となる左官壁

深い軒やV字柱の傾きによる足元への雨がかりの低減に加え取り替えやすいスノコ状デッキ、安全な薬剤（AZN、ACQを採用）による劣化対策を施した。床は圧縮技術を用い岐阜県産スギ材の硬度を高め土足対応とした。これら劣化対策を施したうえで、象徴的なV字柱のみ自然系塗料で薄化粧を施し、その他は無塗装として、時間の変化とともに銀灰色に変化していく過程を楽しむことができる。

また、森林文化アカデミー演習林のほか、岐阜県内各地で採取した土で塗り重ねられた挾土秀平氏指導のもと学生も制作に左官壁は、たとえ傷がついても下の層が現れ、十二単（じゅうにひとえ）のように美しく価値を上げていく。建物や壁を例えに、森林での体験により自分自身が変わっていくことを、より前向きに説明していくことができる。

## 時間をかけて変化する 変わることが価値となる

### 共通体験と対話が 体験の質を上げる

令和2年度のオープン前からチームのスタッフはできる限りみんなで同じ視察をし、研修を受けた。共通の体験から生じる共通の言語や理解により、ビジョンを共有し、森林体験の質を上げることを重視した。

- ・グリーンウッドワークで施設内のスツールづくり（岐阜）
- ・チームビルディング体験（岐阜）
- ・馬と森の可能性を体験（北海道・長野）
- ・自然学校の空間を体験（岐阜・山梨・静岡・新潟）
- ・インクルーシブデザイン研修（岐阜）

幅広い層の利用者の声

利用者のニーズに合わせて変化していくことができるよう、幅広い層の利用者の声を聴くことに努めている。通常実施しているアンケートのほか、聞き取り調査結果について共有するなどの工夫をしている。



### 障がいに関わらず 体験できる森へ

令和2年度には、「すべての人と森をつなぐ」ため、障がいを持った人もそうでない人も平等に森林での体験を楽しむことを目指し、全盲の国立民族学博物館准教授広瀬浩二郎氏、インクルーシブデザインを専門とする東海大学講師安曾潤子氏を招いて研修を重ねた。

morinosは変わり続け、  
深化していく

※インクルーシブデザイン…  
全ての人が受け入れられた  
理想的な社会を目指すもの



車椅子でも楽しめる森の体験のための献酒